

S.N. 社会システム学科・4 年次

I. 留学レポート

① 認定留学を目指した理由

中学 3 年生の頃の短期アメリカ留学をきっかけに国際交流に興味を持ち始めました。高校時代は英語を中心に外国語の勉強や国際交流に積極的に取り組み、入学前から留学について検討していました。様々な国について知っていく中で韓国のドラマやアイドルをきっかけに韓国文化に興味を持つようになり、2020 年 3 月から 1 年間大学を休学(3 年次)し、ソウルにある延世大学韓国語学堂で 9 か月間韓国語を学びました。しかし、コロナ禍での語学留学は授業が全てオンラインとなり、十分な活動が出来ずリベンジしたい気持ちが生まれたこと、また、学びに貪欲で熱心な韓国の学生の姿を見て刺激を受け、韓国の大学で現地の学生と共に正規講義を受講したいと思い、認定留学にチャレンジすることを決めました。

② 留学を目指してから出願までの韓国語学習方法

休学中の語学留学は 9 か月間のみではありましたが、留学前に大学の講義や独学で基礎を学んだうえで、現地で中級～上級の韓国語を習得しました。「できる韓国語初級 I」「カナタ korean 初級 II」「キクタン入門編」という教材が基礎定着に役立ったと思います。延世韓国語学堂はソウルにある韓国語学堂の中でも最も厳しいことで有名で課題や発表が多く、短期間でしっかりと基礎から応用までの力を付けることができます。

③ 留学決定から出発までの準備期間

認定留学は正規科目の受講が基本になるので、最低でも TOPIK4 級程度の韓国語能力は必要です。私は申請時から最上級である 6 級を取得していましたが、講義では知らない単語が多く、事前に学びたい分野の本や記事を読む等の対策をしておけばよかったと感じました。入学手続きは 1 月から開始しました。韓国への認定留学は前例が少なく情報不足だったため一から手探りで行いました。私はファッションについて学びたかったので、衣料関連の学部がある大学を 5 つ選択し、インターネットで大学の国際部や外国人学生向けのサイトで認定留学が可能な制度を探し、受け入れ可能かどうかを直接大学にメールで問い合わせました。認定留学は協定留学と似ており、英語で「Exchange student 大学名」と検索すると英語で案内のホームページが出てくる場合が多いです。問い合わせの際には、(1)1 学期単位で在学できる(2)受講したい学部の講義が受講可能か(3)単位の取得、成績証明書の発行が可能か、といった点を確認しました。第一希望である建国大学の「Visiting student program」という制度を利用して認定留学が可能であることが分かり、必要書類を作成し全てオンラインで入学手続きを行いました。ガイドラインを良く読み準備すれば特に問題はありませんでした。全て英語なので苦労しました。6 月に入学許可書が発行され、必要書類を揃え領事館で D-2 ビザを取得しました。

④ 現地到着後

2 週間の施設隔離のため、空港から事前に契約していた隔離可能なワンルームへ防疫タクシーに乗って移動しました。空港での指示に従い隔離や PCR 検査を受け、隔離解除後は地下鉄でシェアハウスまで移動しました。

オリエンテーションは交換留学生と合同で、オンラインで行われ、学校紹介、履修、外国人登録等について説明がありました。こちらも英語で行われました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

語学研修は受講していませんが言語交換制度に申し込み、週に 3 時間程度建国大学の学生から韓国語を教わりました。主に講義での資料や教科書の中で分からない文法や単語を中心に学習しました。

◆ 授業内容、課題、試験

3 講義しか履修していませんが、1 講義の授業時間が 3-4 時間あり週に 2 回に分けて行われます。全体的に課題が多く試験範囲も広いです。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

かなり広く、図書館や食堂等の設備も充実しています。

◆ 履修科目

履修登録期間が始まる前に事前に前年度の履修科目表を見ながら考えました。

・ファッションと文化

世界と韓国のファッションの時代別特徴、ファッションの起源、機能流行変化、社会環境、ファッションスタイリング、体型別スタイリング

・ファッションとスタイリング

イメージメイキングの理解、カラーイメージ、パーソナルカラーについて、ファッショントレンドの形成、スタイリングとイメージ演出

・多文化世界の理解

多文化社会についての基礎理解、韓国の多文化空間理解、多文化とディアスポラ、文学と多文化、マスメディアとの多文化トーク

◆ 授業、レポート、定期試験

授業はほとんどオンラインで、ズームでのリアルタイム授業とオンデマンド式の授業がありました。基本的に毎週小レポートがあり、講義で重要なポイントを整理したり、関心のあるテーマについて簡単に調べる等の内容を、Word で作成しました。各科目、月に 1~2 回の小テスト、中間考査、中間レポート、期末考査、期末レポートがあり、絶対評価の講義もあるため普段から講義の予習復習をしっかりと行うよう心掛けました。ファッションと文化と

いう講義ではグループ発表があり、チームでファッション文化について 30 分の動画を作成するという課題を 1 か月かけて行いました。外国人留学生は私一人で、現地の学生と共同作業することにはじめは不安もありましたが、オンライン授業が中心のなか、学校で集まり、直接会って準備する機会もあり、とても良い経験になったと思います。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

- ・ 校外で韓国人の大学生と日本人留学生が交流する日韓交流会サークルに所属しました。お互いの国の方言や流行りのゲームを教え合い、韓国の伝統や文化に触れる体験や旅行、言語交換や様々な活動を通して仲を深めることができました
- ・ 建国大学内での言語交換プロジェクトに参加し、毎週建国大学の学生と校内のグローバルラウンジで言語学習をしました。日本語を教えた経験はありませんでしたが、韓国の学生が積極的に質問し自ら進んで学習に励む姿勢に刺激を受け、毎週の参加が楽しみでした。

⑧ 現地での住まい

一人部屋のあるシェアハウスで生活しました。台所・洗濯機等は共同で、お風呂(韓国の家は基本的に湯船がありません。)やトイレは各部屋に備え付けでした。最寄り駅は大学から地下鉄で 20 分ほどの東大門駅で、周辺には大きなマートもあり便利な立地でした。シェアハウスとはいえ基本的には各部屋で生活し、食事等は各自自炊や外食、出前等で済ませていました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

1 学期間のみの留学だったため現地で過ごす長期休暇はありませんでした。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

留学を決断する頃から就職活動への不安が一番大きかったので、就職活動は留学前の年の春から早めに始めました。留学中は現地での学業や活動を優先しながら、オンラインで説明会やインターンシップ等に参加しましたが、留学生活を通して韓国の大学院に進学したい気持ちが強くなり、留学後半は大学院進学に必要な情報集めに専念するようになりました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

語学堂時代からお世話になったダンスの先生のもとで、毎週 2 時間レッスンを受けたことです。幼い頃から趣味で続けてきたことで、自分の好きな韓国のスタイルのダンスを実際に習うことができるのはとても楽しく幸せでした。同世代の友人たちにも出会い、ダンスだけでなく学校生活や日本のことについて話したり、練習後にご飯を食べに行ったことも良い思い出です。また、ダンス学院だけでなく交流団体や学校等で出会った友人たちと帰国してからも頻繁に連絡しており、国籍の壁関係なく大切な人に沢山出会えたことが大きな財産になりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

大きく辛かったことではありませんでしたが、グループ発表で初めて顔合わせをした時、日本で経験したような和気あいあいした雰囲気ではなく、ピリピリした空気感が漂っていたことには文化の違いを感じました。みんなで協力するというよりは、一人一人が良い成績を取るために「足を引っ張らないように」という空気で少し委縮してしまいました。特に動画の中のナレーションでは話し方や表現力まで評価されるため、外国人留学生だからといって迷惑をかけないよう必死で発音練習をし、準備しました。動画が完成した時は初めてチームのメンバーの笑顔も見られ、教授や他の学生からも良い評価を得ることが出来、大きな達成感を感じました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

人と人との距離の近さに驚きました。道や地下鉄で知らない人から話しかけられたり、初めてあった人ともすぐに親しくなる人が多いように感じました。パーソナルスペースが狭く、カップルだけでなく友達同士でもすぐに肩を組んだり腕を組んだりします。韓国人の友人や大家さんは「何か困ったことがあったら言って」「ごはん食べた？」等の言葉を毎日のようにかけてくれ、韓国の「情」文化を肌で感じました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

建国大学は駅直結で立地がとても良く、敷地が広く様々な施設が揃っています。オンラインの講義は専用のサイトとアプリがあるため特に不便なく利用できました。

韓国内でも知名度があり名門大学の 1 つなので、学業に熱心に励む学生が多く刺激を受けることが出来、レベルの高い講義を通して成長できる非常に良い環境だと思いました。悪い点ではありませんが、留学生に対しての資料や連絡等が全て英語だったため、英語が得意でない場合は少し苦勞すると思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必須で、私は iPad がかなり役に立ちました。講義資料の量が多いため、試験前に持ち運んだり整理するには iPad のノートアプリにダウンロードしておくとう便利です。専用のペンシルがあると直接書き込みが出来、私はファッション関連の講義でイメージを描く場面も多く、なくてはならないアイテムでした。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

今回の留学期間には語学の講義を受講していませんが、講義を通して毎日新しい単語に触れ、また生活しながら常に韓国語に触れることができた期間でした。

リアルタイムの講義を初めて聞いたときは教授の言葉が聞き取れないこともありついていけない不安でしたが、講義で使用する専門用語等を整理して覚えていくにつれ、しっかり理

解が出来るようになり、語学力の向上を感じられました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学を通して語学力だけでなく、行動力や計画力といった部分でも成長できたと感じており、本当にチャレンジしてよかったと実感しています。認定留学で韓国に行くというのは異例で、実際に渡航するまでは全く実感が湧きませんでしたが、一つずつ調べ準備することで不安を和らげることが出来、大きなトラブル等無く充実した韓国生活を送ることが出来ました。挑戦したい気持ちを原動力に、明確な目標を持っていれば、必ず自身の成長に繋がる良いきっかけになると思います。

また、特に現在のコロナ禍で留學生活を送るにあたって、水際対策や国内外の状況について情報を得るため常にアンテナを張ることを心掛けました。国際課の先生方や現地の留学生担当からの連絡にはしっかり応え、留学している日本人の友人やインターネットを通して情報収集をしながら常に気を引き締め、規則を守り安全に過ごしてください。また、慣れない環境で過ごすとは体調を崩しやすいため体調管理には気を使い、念のため日本で使用している常備薬等を持参していくことをお勧めします。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

現時点ではまず、卒業後に韓国語と母国についての理解を深め、韓国の大学院で日韓翻訳について学びながらファッション関連の会社でインターンをしたいと考えています。卒業後は韓国企業に就職し、通翻訳業務を中心とした業務に関わり、最終的にはフリーランスの翻訳家として自立し、どこにいても一人で仕事ができる力をつけたいです。日韓を繋ぐ架け橋のような存在になることが夢です。

V. 写真



12 月に念願の済州島旅行に行きました。海が本当に綺麗で感動しました。

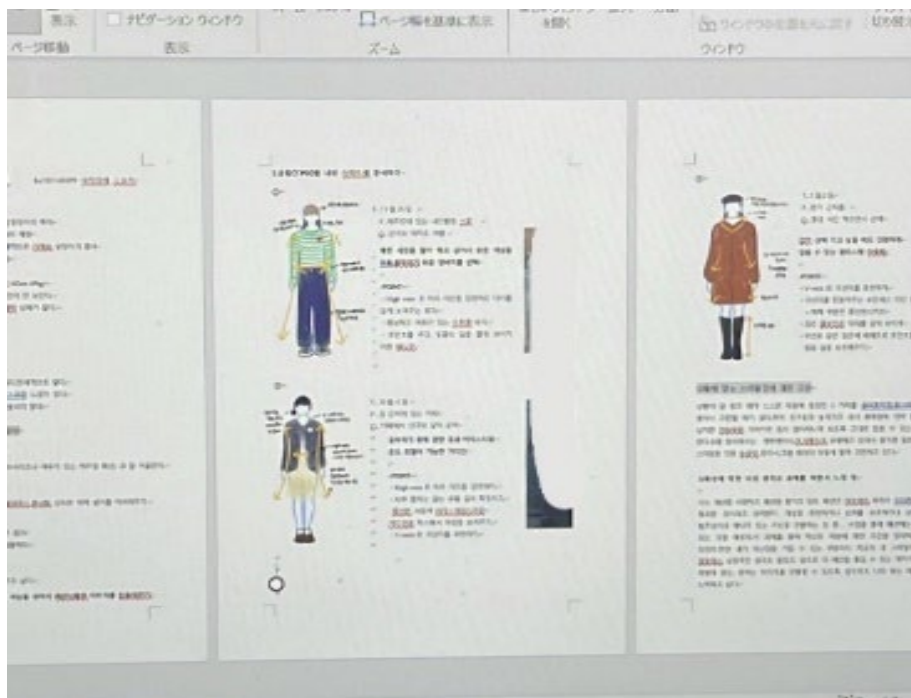
日韓団体の友人と壁画村に行き、韓国文化に触れるタルゴナ作りや市場巡りを体験しました。



通っていたダンスのメンバーとの写真です。



香港人の友人とエバーランドに行きました。韓国籍以外の友人にも出会え、留学を通して生まれたグローバルな繋がりにとても嬉しく思います。



ファッションとスタイリングという講義の期末レポートは、自分自身のスタイリングに向き合うことが出来る課題で、楽しんで制作出来ました。